



ミドルリーダーの挑戦
—前へ! 前へ!!

生徒に寄り添いつつも、教え過ぎず、自主性や協働性を育てたい

滋賀県 大津市立仰木中学校 **高塚将吾** 30歳



Middle Leader

たかつか・しょうご◎教職歴7年。大津市立志賀中学校に勤務後、同校に赴任して4年目。担当教科は理科。研究主任、2学年担任。学生時代にバレーボールに打ち込んだ経験を生かし、女子バレーボール部の顧問を務める。

これまで私が歩いてきた道のり

**授業が成立していないのに
指導方法を見直さず
空回りしていた**

新任当初は、体育会系の熱血教師を目指し、生徒に真面目からぶつかり合う日々でした。授業でも自分の考えを貫き、2年目から、大学時代に研究していた「学び合い」を、授業に取り入れ始めました。授業の冒頭に示す目標の達成に向け、生徒が教室内を自由に歩いて友だちと学び合う。目標を到達したら、黒板に名前を書き、他の生徒の教え役に回る。そして、時間内に黒板に全員の名前を書くことを目指す——。生徒が協

力して目標に向かう過程で、自主性や協働性が育つと考えたのです。

ところが、授業は思い描いていたようには成立しませんでした。目標を達成した生徒は、それで満足して教える側に回らず、出来ない生徒は早々にやる気を失ってしまったのです。ある日、リーダー的な生徒から「先生の授業はイヤ。何も身に付いてへんよ」と言われた時も、自分が正しいと信じて疑わず、「いつか生徒は分かってくれる」と方法を変えませんでした。

しかし、状況は全く変わりませんでした。仕方なく、大学時代の恩師に相談すると、「生徒に謝りなさい。

誰のための授業なんだ」と叱られました。その言葉で我に返った私は、「君たちを無視した授業をしてしまいい、すまなかった」と謝罪し、講義中心の授業に改めると、生徒は落ち着いて学び始めました。

**最初に思いを伝えると
生徒の心に届いて
学び合いが活発化した**

ただ、自主性や協働性を育みたいという思いはずっと持ち続け、翌年、再び学び合いを取り入れたのです。前年の反省を踏まえ、年度初めに「全ての生徒を大切にする学校・学級でありたい。だから、君たちも互いを大切に思い、学び合ってほしい」と理念を丁寧に伝え、生徒が取り組みたくなるような課題を設定し、生徒の気持ちに寄り添った支援を心掛けました。すると、次第に学び合いが活発になっていきました。以前、学び合いがイヤだと言っていた生徒も「皆で頑張ろうや」と学級を引っ張ってくれ、生徒全員が授業時間に目標を達成できるようになったのです。

自信を得た私は、学び合いを学級の外にも広げたいと思い、翌年、3年生が1年生の定期考査の学習をサ

ポートする合同授業に挑戦しました。3年生に相談すると意欲を見せて、熱心に1年生に教えてくれました。分からない内容を一緒に考えて教える3年生の姿から、「皆で高め合おう」という思いを共有できてい

今、私が踏み出そうとしている新たな一歩

教員の同僚性があってこそ 生徒の豊かな人間性を 育てることが出来る

今、研究主任という立場になり、大切にしているのが教員の同僚性です。学び合いがうまくいかなかった時、同僚の先生方がとても心配してくれていました。しかし、悩みを打ち明けることが弱さと思っていた私は、「大丈夫です」としか答えませんでした。生徒に協働性の大切さを教えようとしていた私自身が、それを信じていなかったのです。

再び学び合いに挑戦しようと授業改善を進める中で、先生方に多くのアドバイスをいただきました。学年主任は「自分が責任を取るから、正しいと思うならやり続ける」と勇氣

ることを強く感じました。

今年度は、学年全体で協力することを目指しています。他の学級の友だちにノートを見せたり、課題のヒントを与えたりする「教え合い」を中心に進めています（コラム参照）。

付けてくださいました。そうした経験から、教職員全員が思いを1つにすることによって、生徒を豊かな人間に育てられると考えるようになりました。

同僚性を育むために、私は雑談を重視しています。信頼関係は、何百、何千の会話を通して育つと思うからです。「Aくんがどこそこで何をしていたよ」というように、先生や職員の方との何気ない会話を通して生徒の気になる様子を知らされ、指導に結び付いたことも多々あります。

一方、最近気に掛かっているのは、生徒に「飢餓感」がないことです。パソコンや携帯電話などモノは何でもそろい、授業、部活動、塾と、毎日すべきことも与えられています。常に「満腹感」があり、自ら何かをし

ようとする気持ちが薄いようです。そこで、私は、生徒に教え過ぎず、指示し過ぎないようにして、「自分から動かなければ」という気持ちにさせ、「学びたい」「やってみよう」という主体性を引き出そうとしています。私は極力話さずに、生徒が自分たちで学び合いをしないと進まないような授業を心掛けています。また、部活動では、生徒に練習内容を

選ばせ、自分たちで練習を進めさせています。

いつでも生徒の心に響く言葉を掛けられるように、感受性を磨く努力も続けています。これまで興味のないかった心理学や経営学を学んだり、芸術に触れたり、教育という枠を超えて広い世界を知ること、多様な個性を持つ生徒たちに寄り添える教員でありたいと思っています。

クラス別達成表

高塚先生の取り組み

◎学級内の学び合いは出来てきているので、次は学年全体、学校全体へと広げたいと考えています。理科室に学級別の達成表を掲示し、各学級の課題やテストの到達状況を単元別に共有しています。「このクラスが苦戦しているから教えたい」といった気持ちが起きればと期待しています。

	1 1 時 課題	2 2 時 課題	3 3 時 課題	4 4 時 課題
1	●●●●	●●●●		
2	●●●●	●●●●		
3	●●●●	●●●●		
4	●●●●	●●●●		
5	●●●●	●●●●		
6	●●●●	●●●●		

各学級の状況が見えるようにしたことで、学び合いの意識が高まった。他学級の支援を受けて達成できた学級の生徒が「次は自分たちが教えよう」と奮起する姿が見られるという